

水沢高校スーパーサイエンスハイスクール講演会で菅原研究員が講演しました (2011/9/17)

9月17日(土)、岩手県立水沢高等学校(岩手県奥州市)のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の講演会で、当センターの菅原研究員が講演しました。SSHとは、文部科学省が科学技術や理科・数学教育を重点的に行う高校を指定する制度で、同校は2003年(平成15年)度に指定されました。菅原研究員は「巨大津波と地球科学」という題目で講演を行いました。講演の初めには、地域の地形や地質と自然災害の関係について奥州市周辺の例をあげながら解説し、被害の予防・軽減を目指している災害制御研究センターの活動について紹介しました。講演の前半では、東日本大震災後に行ってきた現地調査の状況を、地震の観測データ、地震による地殻変動や津波のメカニズムなどの背景を交えながら解説しました。講演の後半では、地球科学的な調査・研究によって、869年貞観地震津波の実態がどのように明らかにされるか、高校で学ぶ教科との関係を含めて紹介し、数値シミュレーションによる貞観津波の再現についても高校生に分かりやすく説明しました。

水沢高校は菅原研究員の出身高校でもあります。今回は、大学で学ぶために高校生のうちに取り組んでおきたいことや、卒業生として後輩に伝えたいメッセージも講演内容に含まれました。会場には、1・2年生の528人の生徒が集まり、熱心に聴講していました。特に、高校の科目が将来どのように役立つか、津波の数学的記述方法・シミュレーションの方法には、生徒の大きな関心があるようでした。講演の内容について、今後の災害への対応や、進路の選択に活かしたいとの感想が生徒から寄せられました。



講演の様子(1)



講演の様子(2)

写真提供：水沢高等学校 大平昌次教諭